

## 建專連と近畿整備局が意見交換

## 基幹技能者の活用など要望

建設業労働専門団体連合会（建専連）と近畿地方整備局による「第1回復興労働会議」が六月二十六日、大分市内のホテルで開かれた。交歓会には、近畿建設局から大分県局長はじめ約五十人、建専連から大分県支部長ら約二十人、建設各協会の代表者ら約二十人が出席し、建専連側から出席された要事項について意見を交わした。

木下局長「将来を託す価値のある産業に」



は理屈について話し合われた



木下勉長

連勝連を代表して挨拶する石原の、北澤の西会長

貿易交換会では、初めに才質会長が挨拶。才質会長は、施工単位や資金の下落と技能工の募集化、若年者の定着率の低下などを挙げ、このまま進捗すれば十年後には現場が止まってしまふことと専門工事業の先行きに不安を抱きながら、フアタリソウや複合計算方式の拡大など大入・契約制度の改善・期待を寄せる一方、「原則として公共事業ができれば民間からシフトしてくるものをコンが出来るが、そこでダンピングが生じないようモニタをお願いしたい」と述べ、貿易交換会を主とした。

維持費のなさを訴へ「良い技術者が良い資金を得るため、良い業者が残れる努力をしてほしい」と述べた。

続いて木下副会長が、総協会の概況と若年者の定着率の低下と技能工の不足を多々挙げた。この問題を示しながら、健全な競争と協同協力の両面から複合計算方式を主とした改組警鐘し、地産でも宅建士法においても専門工事業を活用した方式も有効したいと述べ、問題点を挙げ、若く人が将来を担うべき価値のある業種としてい」と問題点を重要交換会を主とした。

の成果に期待を寄せた。次いで北浦会長が、綾上の資源環境について「大阪は特に厳しい」と

ける特記使用への適格なグレード指定の五項目について話し合われた。

月比)  
減)

△12.8% 

△21.2% 

824人 

263戸 

1.285P   
(前月比)  
12%   
△0.4%   
1.11P 

二、整理

大換  
要望

側から提出された①基礎技術者等の活用②総合評価方式の是非形態について③下請代金支払いの適正化④切替穿孔の工事環境(業種認定) ⑤鋼材目・ブローカー等への指導並びに公共工事にお

5月の新

いけば形になる」と取り組みを紹介した。

制限価格の見直しなどで  
正しい競争環境に導くこ  
とは発注者の責任とし、  
その実現へ徹底してやっ  
ていきたいとした。

子昆の三の領多内廷



11

100

Quantitative analysis of the data was performed using the following statistical tests:

新規供給1411戸（前年同月比21.2%減）

発売物件も12.8%減の75件に

| (前年同月比) |        |         |
|---------|--------|---------|
| 新規発売物件数 | 75件    | △12.6%  |
| 新規供給戸数  | 1,411戸 | △21.2%  |
| 視月販売率   | 64.5%  | 82%↑    |
| 分譲中戸数   | 5,889戸 | 263戸↓   |
| 完成在庫    | 3,474戸 | 1,265戸↓ |

  

| (前月比)            |                    |        |
|------------------|--------------------|--------|
| 平均価格             | 3,630円             | 12%↓   |
| 分譲中価格<br>(30㎡未満) | 4,821円<br>(1,595円) | △0.4%  |
| 平均面積             | 75.25㎡             | 1.11%↓ |

□長合工機研□

口長谷工総研口

戸、人、戸、三、戸、四、三、六、五、三、戸、三、丁、惣、石